



10月23日から11月2日まで冬支度のため休園します
小動物の一部や北海道産動物は今のうちにご覧ください

ASAHIYAMA ZOO

発行所
動物資料展示館
旭川市
旭山動物園
☎ 36-1104

夏の開園もあとわずか

秋の動物園もまだまだ見どころいっぱい!

夕暮れの動物園や動物の収容の様子・クモザルやチンパンジーは屋内の様子なども見られます

ととりの村で初!! もぐもぐタイムがはじまります!

ととりの村で、もぐもぐタイムがはじまります。このガイドでは8月にふ化したキンクロハジロを馴致(慣れさせること)した個体を使って行われます。キンクロハジロはカモの仲間の中でも潜水する能力にすぐれており、その体の仕組みや動きが間近で見られます!

金の瞳に黒い羽、
翼の一部は白い羽

もうじゅう館ではライオンのレイラが...



5年ぶりの赤ちゃんをお楽しみに!



数週間後の予定日が近づくとレイラは出産に備え、この産室にもります。そして、元気な赤ちゃんを産んでくれることでしよう。順調であれば、出産後1ヶ月くらいに赤ちゃんを公開する予定ですので、冬の動物園を心待ちにしてください。

この秋、旭山では5年ぶりにライオンの赤ちゃんがみられそうです。ライオンの交尾が確認されたのは今年の6月下旬。110日間もの時間をかけてメス・レイラのお腹の中では赤ちゃんが順調に育っています。10月に入ってすぐ、担当の飼育係は出産に向けて産室の準備をしていました。産室と放飼場を結ぶ通路にはチップ(木くず)をフカフカに敷き詰めて、安心して出産できる空間(産室)をつくりました。

心にひびけ! 彼らのメッセージ~

アイヌ語では何というでしょう? 昔からの人と動物との付き合い方が見えてきます

エゾユキウサギは冬は真っ白な姿で夏は茶色の毛色。夏と冬では見事なコントラストを見せます。冬、雪の中で白にとけ込む姿が見られないのがとても残念です。最近は徐々に白い毛が増えて来ています。

閉園までにはどれくらい毛色が変わるでしょうか?



秋も深まり、動物たちも冬支度の最中です。夏毛から冬毛へ徐々に替わり始めています。夏の間とはちよつとちがった姿がみられますよ。北海道産動物のコーナーでは、私たちの身近な自然に生きる野生動物たちを展示しています。そもそも野生にいたるはずの彼らがなぜここで展示されているのでしょうか? 彼らのほとんどは交通事故など、人が原因で、ケガをしたり、病気になって保護された動物たちです。本来ならば、大自然の中でびびと生きていたはずですが、今、ここで暮らす彼らは何を訴えているのでしょうか?

彼らのように人間の生活の犠牲になる動物たちを減らし、野生の動物たちを守るためにはどうしたらいいのでしょうか? 彼らが彼ららしく生きるためには、本来の自然が必要なのです。私たちが生活している、すぐとなりの森でも動物たちは暮らしています。身近な自然、そして、そこにすむ動物たちのメッセージを伝えることができます。それは、北海道産の動物たち、彼らなのでしよう。そんな彼らに会いにきてください。そして、人と動物たちが共生できる社会を取り戻していきたくものです。

道産動物は夏期のみ展示です。閉園までにもう一度
その他ととりの村・小動物の一部も同じく夏期のみ展示です

北海道産動物では、冬に向けて...

アイヌ語では何という? ウェンベまたはニオウ 悪い者 木登り

北海道の野生動物を知って! 知って! 知って!

アイヌ語では何という? モ ユク・カムイ 小さい 獲物 神様

エゾリスは野生でも冬眠することなく冬を過ごします。雪が積もる冬にそなえて木の実を地面に埋めて食べ物を貯めます。動物園でもそんな姿がみられますよ。そろそろ耳に冬毛の特徴とする長い房毛が生えてくる頃です。

エゾタヌキは外来生物展の期間中(10/22まで)小動物舎でアライグマとの比較展示を行っています(午前中のみ)北米からつれて来られた外来種のアライグマは、長い歴史の中で北海道の自然に適応したエゾタヌキの能力をはるかに上回ります。限られた自然の中でどちらかが生き残るとすると、それはどちらでしょう? このままではエゾタヌキの姿が見られなくなってしまいかも知れません。私たちが守っていききたい自然とは?

1981年から続いている動物園の機関誌「モユクカムイ」もここから名づけられています。